

■ 検査

A 準備

特に指定しないとき、各検査は以下の条件の下で行います。

- ・ワードクロックは、インターナル 48 kHz にします。
- ・測定 CH のみ ON とします。

PAN	センター
GAIN	Minimum
PAD	ON
FADER	NOMINAL (0 dB)

- ・アナログ出力の負荷は、以下の通りとします。

STEREO OUT (XLR):	600 Ω
BUS OUT 1, 2, 3, 4:	10 k Ω
AUX OUT 1, 2, 3, 4:	10 k Ω
REC OUT (PIN):	10 k Ω
MONITOR OUT:	10 k Ω
PHONES:	8 Ω

- ・ 0 dBs=0.775 Vrms
- ・ 0 dBV=1 Vrms=2.2 dBs
- ・ 発振器の出カインピーダンス: 150 Ω
- ・ オシロスコープの入カインピーダンス: 100 k Ω 以上
- ・ レベル計等の入カインピーダンス: 100 k Ω 以上
- ・ ノイズ測定は、12.7 kHz、-6 dB/OCT の LPF で補正します。(実効値ではなく平均値での測定とします。)

B 初期化

STORE キーを押しながら電源スイッチを ON してシステムを立ち上げ、次に RECALL キーを押して初期化を実行した後、各検査を実行します。

C. テストプログラム

UTILITY、HI-MID、FADER キーを同時に押しながら電源スイッチを ON してシステムを立ち上げると、テストプログラムが起動します。
テストプログラムによる検査は、本サービスマニュアルのテストプログラムの項目を参照して下さい。

D. 検査

1. ST OUT L/R

条件: CH1 から入力します。

① f 特 (L/R 共)

条件: 許容範囲は 1 kHz を基準とします。

入力周波数	入力レベル	許容範囲
20 Hz	+10 dBs	-1.5 dB~0 dB
20 kHz	+10 dBs	-1.0 dB~0 dB

② 残留ノイズ (L/R 共)

条件: ST OUT を OFF します。

許容範囲
-94 dBs 以下

③ L/R 間のクロストーク

条件: PAN は、L 振り切りとします。

入力周波数	出力レベル(L)	許容範囲(R)
1 kHz	+16 dBs	-54 dBs 以下

注: R 側も同様であることを確認します。

④ L/R 間のレベル差

①で測定した 1 kHz の利得の差が、以下の範囲であることを確認します。

許容範囲
1 dB 以内

2. REC OUT L/R

条件: CH1 から入力します。

SOURCE SELECT: ST OUT

① 利得 (L/R 共)

入力周波数	入力レベル	規定出力レベル	許容範囲
1 kHz	+10 dBs	-10 dBV	-10 dBV ±2 dB

② f 特 (L/R 共)

条件: 許容範囲は 1 kHz を基準とします。

入力周波数	入力レベル	許容範囲
20 Hz	+10 dBs	-1.5 dB~0 dB
20 kHz	+10 dBs	-1.0 dB~0 dB

3. AUX OUT 1, 2, 3, 4 / BUS OUT 1, 2, 3, 4

条件: CH1 から入力します。

アサイン: 1~4 ON

AUX CH FADER: NOMINAL (0 dB)

BUS MASTER FADER: NOMINAL (0 dB)

① f 特 (AUX 1, 2, 3, 4 / BUS 1, 2, 3, 4 共)

条件: 許容範囲は、1 kHz を基準とします。

入力周波数	入力レベル	許容範囲
20 Hz	+10 dBs	-1.5 dB~0 dB
20 kHz	+10 dBs	-1.0 dB~0 dB

② 残留ノイズ (AUX 1, 2, 3, 4 / BUS 1, 2, 3, 4 共)

条件: AUX OUT, BUS OUT を OFF します。

許容範囲
-87 dBs 以下

③ 奇数チャンネル/偶数チャンネル間のクロストーク

条件: 測定 AUX の CH FADER 出力側のみ NOMINAL (0 dB)

測定 BUS の ASSIGN 出力側のみ ON

入力周波数	出力レベル (奇数チャンネル)	許容範囲 (偶数チャンネル)
1 kHz	+16 dBs	-54 dBs 以下

注: 偶数側も同様であることを確認します。

- ④ AUX 1, 2, 3, 4/ BUS 1, 2, 3, 4 間のレベル差
①で測定した 1 kHz の利得の差が、以下の範囲であることを確認します。

許容範囲
1 dB 以内

4. REC OUT L/R

条件: CH1 から入力します。

アサイン: 1, 2 ON
BUS MASTER FADER 1, 2: NOMINAL (0 dB)
SOURCE SELECT: BUS OUT

①利得

入力周波数	入力レベル	規定出力レベル	許容範囲
1 kHz	+10 dBs	-10 dBV	-10 dBV ±2 dB

5. MONITOR OUT L/R

条件: CH1 から入力します。

SOLO/2TR IN: SOLO
MONITOR OUT LEVEL: Maximum

① f 特(L/R 共)

条件: 許容範囲は 1 kHz を基準とします。

入力周波数	入力レベル	許容範囲
20 Hz	+10 dBs	-1.5 dB~0 dB
20 kHz	+10 dBs	-1.0 dB~0 dB

②残留ノイズ(L/R 共)

MONITOR OUT LEVEL	許容範囲(MONITOR)
Maximum	-94 dBs 以下
Minimum	-100 dBs 以下

③ L/R 間のクロストーク

条件: PAN は、L 振り切りとします。

入力周波数	出力レベル(L)	許容範囲(R)
1 kHz	+16 dBs	-54 dBs 以下

注: R 側も同様であることを確認します。

④ L/R 間のレベル差

①で測定した 1 kHz の利得の差が、以下の範囲であることを確認します。

許容範囲
1 dB 以内

6. 出力レベル差

条件: ST OUT L/R/ AUX 1, 2, 3, 4/ BUS OUT 1, 2, 3, 4/
MONITOR OUT L/R の 1 kHz で測定した利得の差が、以下の範囲であることを確認します。

許容範囲
2 dB 以内

7. PHONES OUT L/R

条件: CH1 から入力します。

PHONES LEVEL: Maximum

① f 特(L/R 共)

条件: 許容範囲は 1 kHz を基準とします。

入力周波数	入力レベル	許容範囲
20 Hz	+10 dBs	-3 dB~0 dB
20 kHz	+10 dBs	-1 dB~0 dB

②残留ノイズ(L/R 共)

条件: PHONES LEVEL を、Minimum にします。

許容範囲
-100 dBs 以下

③ L/R 間のクロストーク

条件: PAN は、L 振り切りとします。

入力周波数	出力レベル(L)	許容範囲(R)
1 kHz	-10 dBs	-75 dBs 以下

注: R 側も同様であることを確認します。

④ L/R 間のレベル差

①で測定した 1 kHz の利得の差が、以下の範囲であることを確認します。

許容範囲
1 dB 以内

8. 最大出力

条件: 本体の本体内部発振器の周波数や出力レベル、出力先、フェーダー位置などを設定して測定して下さい。

A 内部発振器と出力先の設定

A-1 SCENE MEMORY セクションの▲キーもしくは▼キーで "00" 番地を選択して RECALL キーを押します。(図 1)

A-2 SETUP セクションの UTILITY キーを押します。(図 2)

A-2-1 画面コントロールセクション中の CURSOR▼キーで SINE 1kHz を選び、ENTER キーを押します。(図 2)

A-2-2 画面コントロールセクション中の CURSOR▼キーで OSC ON にカーソルを移動し、ENTER キーを押して "ON" にします。(図 2)

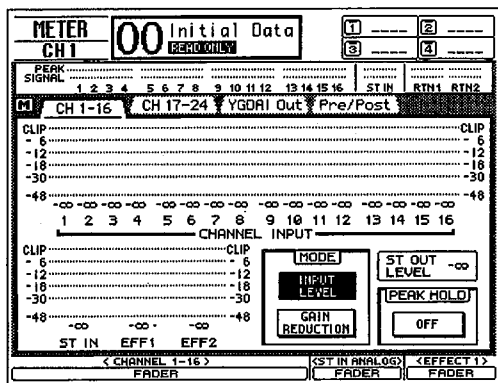
A-2-3 画面コントロールセクション中の CURSOR▶キーで LEVEL にカーソルを移動し、PARAMETER ダイアルで出力を "0 dB" にします。(図 2)

A-3 画面コントロールセクション中の CURSOR▶キーで ASSIGN に移動し、BUS 1~4, AUX 1~4, ST OUT を 1 つずつ選び、ENTER キーで出力先をセットします。(図 2)

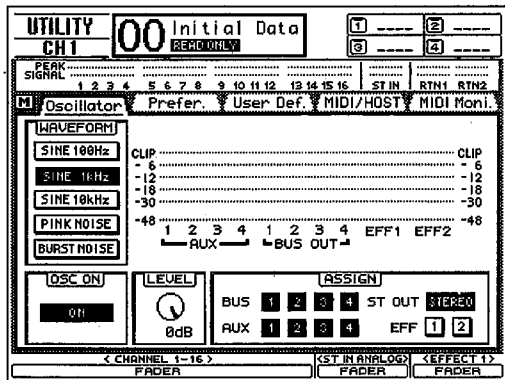
B フェーダー位置の設定

B-1 MIXING LAYER キーを押して"CH17~24"を選択します。(図3)

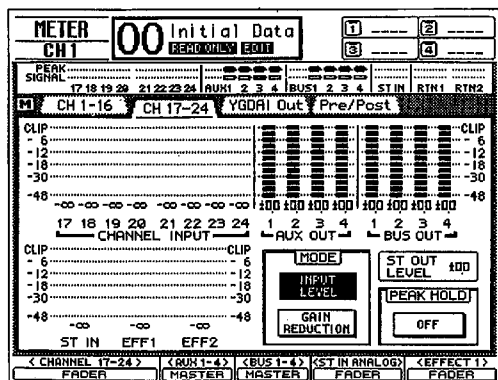
B-2 FADER MODE セクションの FADER キーで"CH17~24"のページを選んで、AUX OUT 1~4, BUS 1~4, ST OUT びフェーダーを、±0.0 (NOMINAL)にセットします。(図3)



(図1)



(図2)



(図3)

8-1 ST OUT の最大出力(L/R 共)

入力周波数	出力レベル	許容範囲(歪率)
1 kHz	+18 dBs ± 0.5 dB	0.03 %以下

8-2 AUX OUT (1, 2, 3, 4), BUS OUT (1, 2, 3, 4)の最大出力

入力周波数	出力レベル	許容範囲(歪率)
1 kHz	+18 dBs ± 0.5 dB	0.02%以下

8-3 MONITOR OUT の最大出力(L/R 共)

入力周波数	出力レベル	許容範囲(歪率)
1 kHz	+18 dBs ± 0.5 dB	0.03 %以下

8-4 PHONES OUT の最大出力(L/R 共)

入力周波数	出力レベル	許容範囲(歪率)
1 kHz	-4.5 dBs ± 0.5 dB	0.05 %以下

9. 2TR IN L/R

条件: MONITOR OUT で検査します。

MONITOR OUT LEVEL: Maximum
SOLO/2TR IN: 2TR IN

①利得(L/R 共)

入力周波数	入力レベル	規定出力レベル	許容範囲
1 kHz	-10 dBV	+4 dBs	+4 dBs ± 2 dB

②f特(L/R 共)

条件: 許容範囲は 1 kHz を基準とします。

入力周波数	入力レベル	許容範囲
20 Hz	-10 dBV	-1.0 dB ~ 0 dB
20 kHz	-10 dBV	-1.0 dB ~ 0 dB

③歪率(L/R 共)

入力周波数	出力レベル	許容範囲
1 kHz	+16 dBs	0.003 %以下

④残留ノイズ(L/R 共)

条件: 2TR IN を、150 Ω でショートします。

許容範囲
-98 dBs 以下

⑤ L/R 間のレベル差

①で測定した利得の差が、以下の範囲であることを確認します。

許容範囲
1 dB 以内

⑥ L/R 間のクロストーク

条件: L 側に信号を入力し、R 側は 150 Ω でショートします。又、MONITOR OUT LEVEL は、Maximum にします。

入力周波数	出力レベル(L)	許容範囲(R)
1 kHz	+16 dBs	-54 dBs 以下

注: R 側も同様であることを確認します。

10. CH IN 1~CH 8 (XLR, PHONE)

条件: ST OUT の L で検査します。

10-A. GAIN Maximum, PAD OFF

①利得(CH1~CH8)

入力周波数	入力レベル	規定出力レベル	許容範囲
1 kHz	-60 dBs	+4 dBs	+4 dBs ±2 dB

② f 特(CH1~CH8)

条件: 許容範囲は 1 kHz を基準とします。

入力周波数	入力レベル	許容範囲
20 Hz	-60 dBs	-2.0 dB~0 dB
20 kHz	-60 dBs	-1.0 dB~0 dB

③歪率(CH1~CH8)

入力周波数	出力レベル	許容範囲
1 kHz	+16 dBs	0.02 %以下

④ノイズレベル EIN (CH1~CH8)

許容範囲
-64 dBs 以下

ただし、上記許容範囲に入らない場合でも、下記条件に入れば可とします。

測定値 - (1 kHz における利得) \leq -128

⑤ L/R 間のレベル差(CH1~CH8)

①で測定した利得の差が、以下の範囲であることを確認します。

許容範囲
2 dB 以内

10-B. GAIN Minimum, PAD ON

①利得(CH1~CH8)

入力周波数	入力レベル	規定出力レベル	許容範囲
1 kHz	+10 dBs	+4 dBs	+4 dBs ±2 dB

②歪率(CH1~CH8)

入力周波数	出力レベル	許容範囲
1 kHz	+16 dBs	0.02 %以下

③ノイズレベル(CH1~CH8)

許容範囲
-90 dBs 以下

④奇数 CH、偶数 CH 間のクロストーク

条件: 奇数 CH 側に信号を入力し、偶数 CH 側は 150 Ω でショートします。

入力周波数	出力レベル(奇数 CH)	許容範囲(偶数 CH)
1 kHz	+16 dBs	-54 dBs 以下

注: 偶数 CH 側も同様であることを確認します。

⑤ INSERT OUT 利得(CH1~CH2)

入力周波数	入力レベル	規定出力レベル	許容範囲
1 kHz	+10 dBs	+4 dBs	+4 dBs ±1.5 dB

⑥ INSERT OUT ノイズレベル(CH1~CH2)

許容範囲
-90 dBs 以内

10-C. ファントム(CH1~CH8)

XLR の 2 ピンと 3 ピンをショートし、2-1 ピン間に 10 k Ω 負荷を接続してファントム SW を ON したときの電圧が、以下の範囲にあることを確認します。

許容範囲
DC 31 V~37 V

ファントム SW を OFF したとき、速やかに放電を開始することを確認します。

11. CH IN 9~16, ST IN L, R

条件: ST OUT の L と R で検査します。

11-A. GAIN Maximum

①利得(CH9~CH16, ST IN L, R)

入力周波数	入力レベル	規定出力レベル	許容範囲
1 kHz	-20 dBs	+4 dBs	+4 dBs ±2 dB

② f 特(CH9~CH16, ST IN L, R)

条件: 許容範囲は 1 kHz を基準とします。

入力周波数	入力レベル	許容範囲
20 Hz	-20 dBs	-2.0 dB~0 dB
20 kHz	-20 dBs	-1.0 dB~0 dB

③歪率(CH9~CH16, ST IN L, R)

入力周波数	出力レベル	許容範囲
1 kHz	+16 dBs	0.02 %以下

④ノイズレベル EIN(CH9~CH16, ST INN L, R)

許容範囲
-82 dBs 以下

ただし、上記許容範囲に入らない場合でも、下記条件に入れば可とします。

測定値 - (1 kHz における利得) \leq -104

⑤奇数 CH と偶数 CH 間のレベル差

①で測定した利得の差が、以下の範囲であることを確認します。

許容範囲
1 dB 以内

⑥レベル差(CH9~CH16、ST IN L, R)

①で測定した利得の差が、以下の範囲であることを確認します。

許容範囲
2 dB 以内

11-B. GAIN Minimum

①利得(CH9~CH16、ST IN L, R)

入力周波数	入力レベル	規定出力レベル	許容範囲
1 kHz	+10 dBs	+4 dBs	+4 dBs ±2 dB

②歪率(CH9~CH16、ST IN L, R)

入力周波数	出力レベル	許容範囲
1 kHz	+16 dBs	0.02 %以下

③ノイズレベル(CH9~CH16、ST IN L, R)

許容範囲
-90 dBs 以下

④奇数 CH、偶数 CH 間のクロストーク

条件: 奇数 CH 側に信号を入力し、偶数 CH 側は 150 Ω でショートします。

入力周波数	出力レベル(奇数 CH)	許容範囲(偶数 CH)
1 kHz	+16 dBs	-54 dBs 以下

注: 偶数 CH 側も同様であることを確認します。

⑤ ST IN L, R 間のクロストーク

条件: L 側に信号を入力し、R 側は 150 Ω でショートします。

入力周波数	出力レベル(L)	許容範囲(R)
1 kHz	+16 dBs	-44 dBs 以下

注: R 側も同様であることを確認します。

12. DIGITAL ST IN デジタル

条件: AD2X を用意し、ワードクロックは、INT 48 kHz にセットします。

12-A. エンファシス OFF 時の MONITOR

条件: ST OUT の L と R で検査します。

ST IN: DIGITAL
AD2X: エンファシス OFF

①利得(AES/EBU、COAXIAL 共)

入力周波数	入力レベル(AD2X)	規定出力レベル	許容範囲
1 kHz	+4 dBs	+4 dBs	+4 dBs ±2 dB

② f 特(AES/EBU)

条件: 許容範囲は 1 kHz を基準とします。

入力周波数	入力レベル(AD2X)	許容範囲
20 Hz	+4 dBV	-1.0 dB~+0.5 dB
20 kHz	+4 dBV	-1.0 dB~+0.5 dB

③歪率(AES/EBU)

入力周波数	出力レベル(03D)	許容範囲
1 kHz	+16 dBs	0.02 %以下

12-B. エンファシス ON 時の MONITOR

条件: ST OUT の L と R で検査します。

ST IN: DIGITAL
AD2X: エンファシス ON

①利得(AES/EBU、COAXIAL 共)

入力周波数	入力レベル(AD2X)	規定出力レベル	許容範囲
1 kHz	+4 dBs	+4 dBs	+4 dBs ±2 dB

② f 特(AES/EBU)

条件: 許容範囲は 1 kHz を基準とします。

入力周波数	入力レベル(AD2X)	許容範囲
20 Hz	+4 dBV	-1.0 dB~+0.5 dB
20 kHz	+4 dBV	-1.0 dB~+0.5 dB

13. ST OUT デジタル

条件: CH1 から入力します。
AD2X を使用します。

①利得(AES/EBU、COAXIAL 共)

入力周波数	入力レベル	規定出力レベル	許容範囲
1 kHz	+10 dBs	+6 dBs	+6 dBs ±2 dB

② f 特(AES/EBU)

条件: 許容範囲は 1 kHz を基準とします。

入力周波数	入力レベル(AD2X)	許容範囲
20 Hz	+10 dBs	-1.0 dB~+0 dB
20 kHz	+10 dBs	-1.0 dB~+0 dB

③歪率(AES/EBU)

入力周波数	出力レベル	許容範囲
1 kHz	+18 dBs	0.02 %以下

14. WORD CLOCK IN, OUT

条件: 歪率は、ST OUT の L と R で検査します。
 ジッターは、WORD CLOCK OUT にて測定します。
 CHI から入力します。
 DRU8 の WORD CLOCK OUT を使用します。
 WC SELECT は、WC IN にします。

14-A. 48 kHz +6 %

条件: DRU8 は、48 kHz +6 % (PLL) にします。

①歪率(L/R 共)

入力周波数	出力レベル	許容範囲
1 kHz	+16 dBs	0.03 %以下

②ジッター

許容範囲
25 nsec 以下

14-B. 32 kHz -6%

条件: DRU8 は、32 kHz -6 % (PLL) にします。

①歪率(L/R 共)

入力周波数	出力レベル	許容範囲
1 kHz	+16 dBs	0.02 %以下

②ジッター

許容範囲
25 nsec 以下

14-C. 48 kHz

条件: DRU8 は、48 kHz (Xtal) にします。

①ジッター

許容範囲
10 nsec 以下

E. 初期化

検査終了後は、必要に応じて初期化を実行しておいて下さい。STORE キーを押しながら電源スイッチを ON してシステムを立ち上げ、次に RECALL キーを押すと初期化を行うことができます。

■ テストプログラム

A. 準備

電源をオンする前に下記の治具類を接続してスイッチ類をセットします。

1. スロット点検治具カード(NX818810)と MOUSE をつなぎます。
2. COMMUNICATION のチェック用ボードをつなぎ、TO HOST ON/OFF スイッチは OFF にします。
3. Dsub 9 pin コネクターの 3 ピン-7 ピンと 2 ピン-8 ピンをショートしたコネクターを用意し、TO EDITOR 端子に差し込みます。

使用治具: NX818810 スロット点検治具カード

B. テストプログラムの入り方

[UTILITY]キー、[HI-MID]キー、[FADER]キーを同時に押しながら電源スイッチを ON してシステムを立ち上げると、DIAGNOSTICS に入り、メニュー画面が表示されます。

*コントラストつまみが正常に動作することを確認します。

*カーソルキーで進めて[ENTER]キーか MIDI からにより実行することが出来ます。

03D DIAGNOSTICS PROGRAM V1.00	
<input type="checkbox"/> 1.Initial Test	<input type="checkbox"/> 9.WordClock Test
<input type="checkbox"/> 2.DSP&DRAM Test	<input type="checkbox"/> 10.DIO Test
<input type="checkbox"/> 3.LCD Test	<input type="checkbox"/> 11.Slot Test
<input type="checkbox"/> 4.LED Test	<input type="checkbox"/> 12.AD/DA Test(Sheet only)
<input type="checkbox"/> 5.Switch Test	<input type="checkbox"/> 13.--reserved--
<input type="checkbox"/> 6.Enc/Mouse Test	<input type="checkbox"/> 14.Exit
<input type="checkbox"/> 7.Fader Test	<input type="checkbox"/> 15.Fader Asing
<input type="checkbox"/> 8.Comm. Test	<input type="checkbox"/> 16.Factory Preset

該当項目のテストがOKになった時、
チェックボックスがチェックされます。

CHECK項目とCHECK結果がここに表示されます。

*DIAGNOSTICS の MIDI コントロール機能について

03D の DIAGNOSTICS は通常動作モード上において以下のような MIDI System Exclusive メッセージを入力することで起動することが出来ます。

```
F0 43 00 7E 00 18 4C 4D 20 20 38 42 30 33 54 20
30 33 44 20 44 49 41 47 20 53 54 41 52 54 4C F7
```

また DIAGNOSTICS 起動後各テスト画面は MIDI プログラムチェンジ信号によって選択することが出来ます。信号の割り当ては、

C0 XX [XX = (Test No. -1)x8]
となっています。

例: Initial Test = C0 00, DSP&DRAM Test = C0 08, Exit = C0 68, ...

テストの途中で[ENTER]キーを押す必要のある画面では、各画面起動の Program Change 番号を再度入力することで同様の動作が可能になります。

尚、各画面のテスト終了時には MIDI OUT 端子から[4F 4B]("OK"のアスキーコード)あるいは[4E 47]("NG"のアスキーコード)がテスト結果に応じて出力されます。

1. INITIAL TEST

バッテリー、MAIN-SUB 間のコミュニケーション、RAM のチェックと MAIN, SUB DIAG のバージョンを表示します。

```

03D DIAGNOSTICS PROGRAM  V1.00

 1.Initial Test       9.WordClock Test
 2.DSP&DRAM Test   10.DIO Test
 3.LCD Test           11.Slot Test
 4.LED Test          12.AD/DA Test(Sheet only)
 5.Switch Test      13.--reserved--
 6.Enc/Mouse Test   14.Exit
 7.Fader Test        15.Fader Assign
 8.Comm. Test       16.Factory Preset

1.Initial Test
SUB COMM.
BATTERY
VERSION MAIN V1.00
          SUB  V1.00
RAM <IC060,IC061>

OK
OK 3.3V
 OK
    
```

この項目が全てOKならOKを表示します。
その他のMenuでも同様です。

SUBとの通信のチェック結果

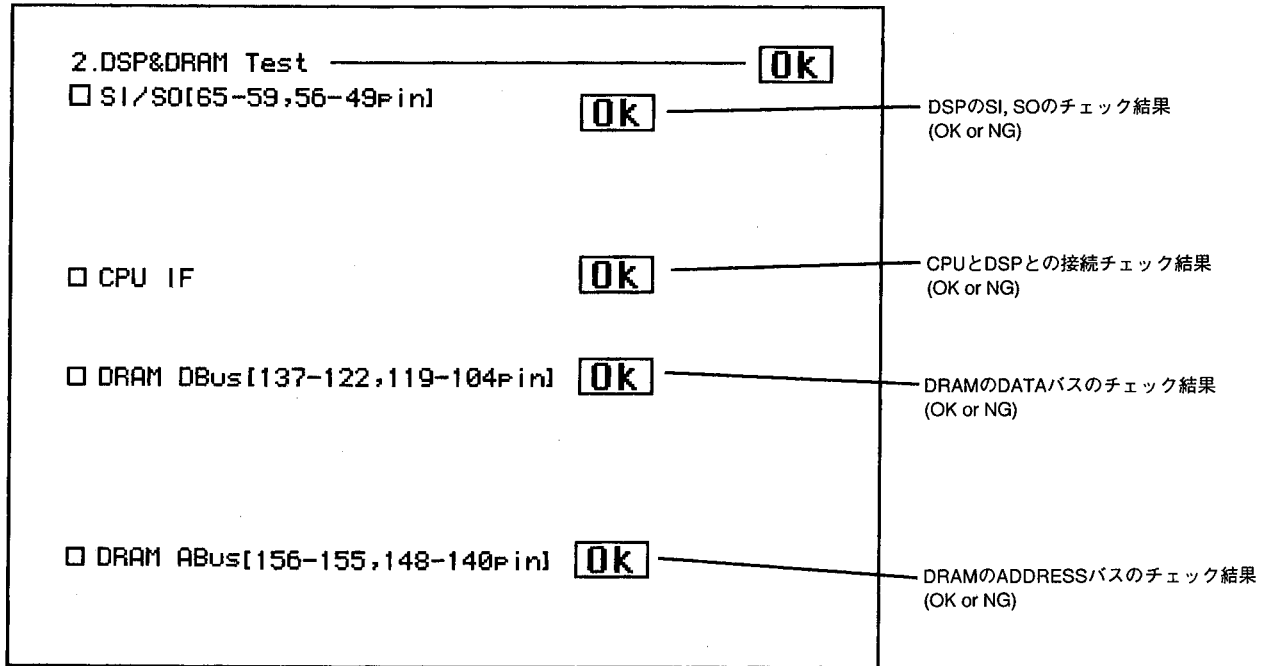
バージョンを表示

RAMのチェック結果(OKまたはNG)

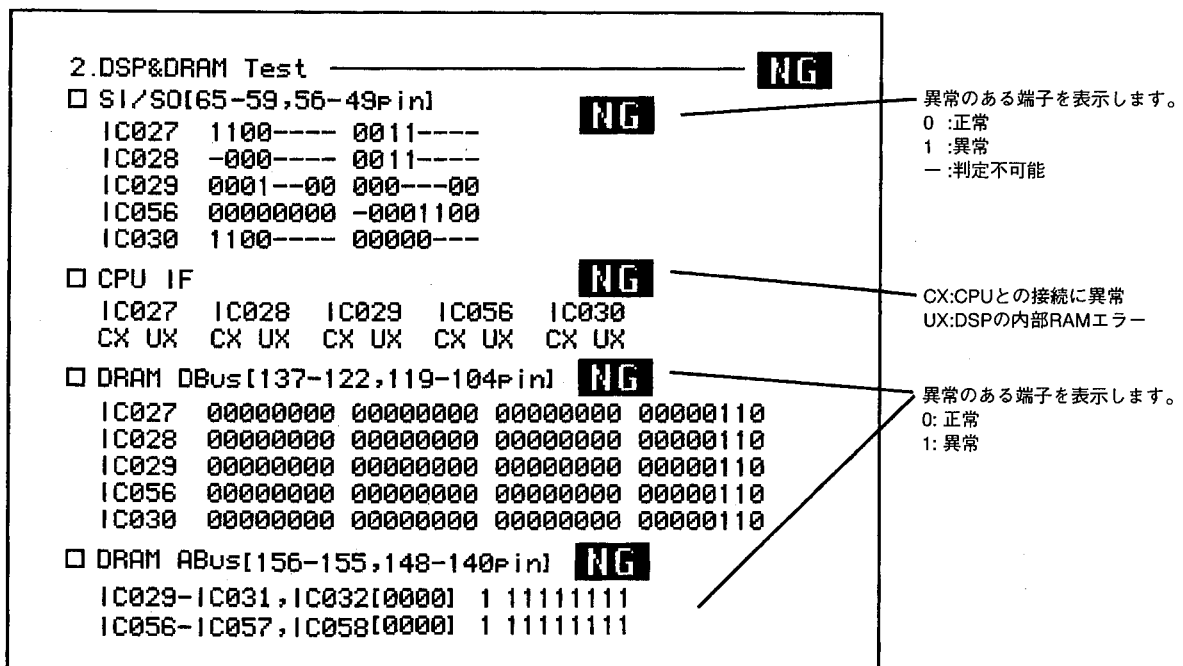
バッテリーのチェック結果を表示します。
(3.0 V以上3.5 V未満ならOK)

2. DSP & DRAM TEST

DSP と DRAM のチェックを行います。



NG の例



3. LCD TEST

LCD画面が全白 -> 全黒 -> 全白 -> 全黒と切り替わります。[ENTER]キーでメニュー画面に戻ります。

4. LED TEST

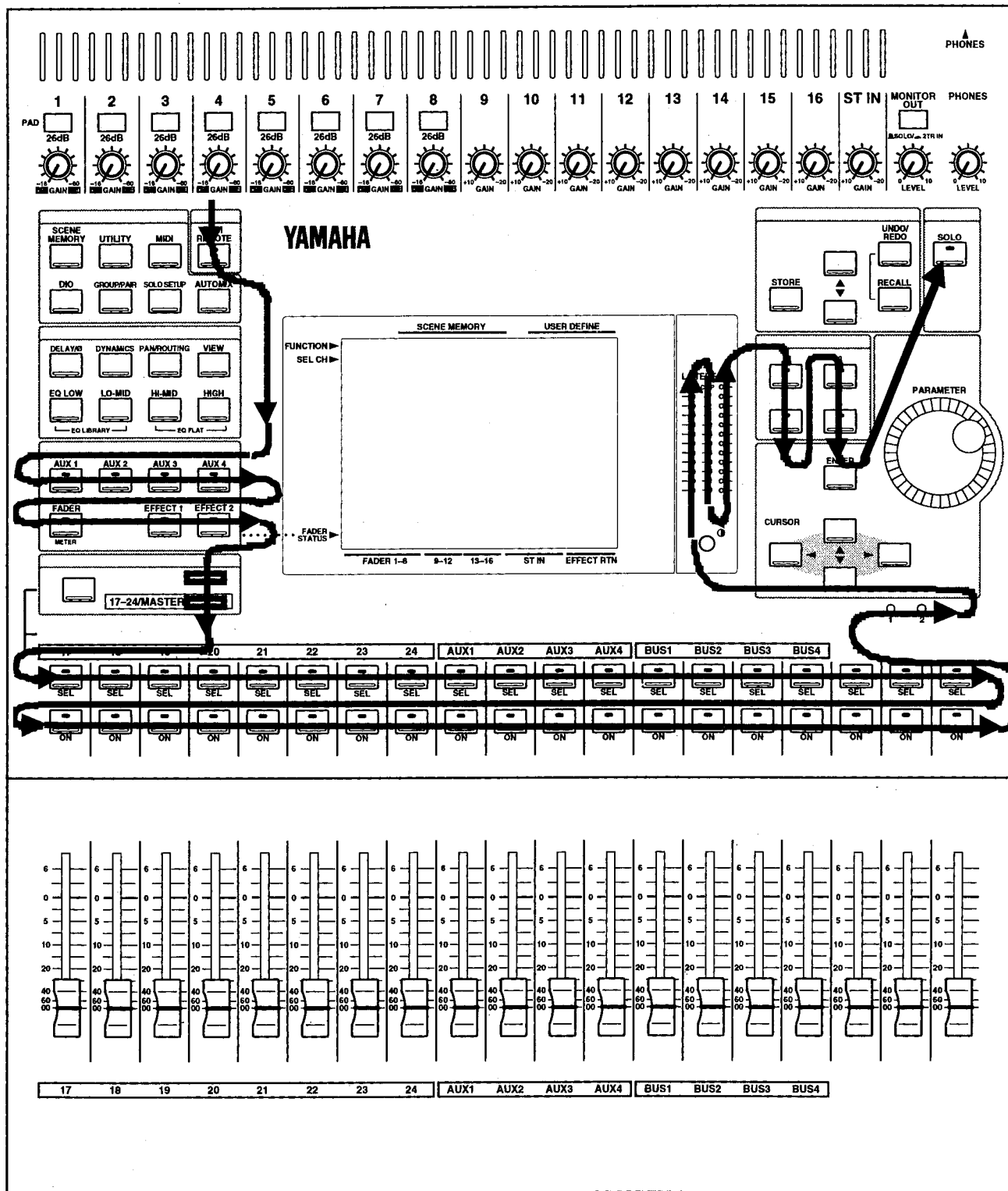
次のページの順番でLEDが点灯しますので目視で確認します。

03D DIAGNOSTICS PROGRAM V1.00	
<input type="checkbox"/> 1.Initial Test	<input type="checkbox"/> 9.WordClock Test
<input type="checkbox"/> 2.DSP&DRAM Test	<input type="checkbox"/> 10.DIO Test
<input type="checkbox"/> 3.LCD Test	<input type="checkbox"/> 11.Slot Test
<input checked="" type="checkbox"/> 4.LED Test	<input type="checkbox"/> 12.AD/DA Test(Sheet only)
<input type="checkbox"/> 5.Switch Test	<input type="checkbox"/> 13.--reserved--
<input type="checkbox"/> 6.Enc/Mouse Test	<input type="checkbox"/> 14.Exit
<input type="checkbox"/> 7.Fader Test	<input type="checkbox"/> 15.Fader Asins
<input type="checkbox"/> 8.Comm. Test	<input type="checkbox"/> 16.Factory Preset

4.LED Test OK

全てのLEDを点灯し終わったらOKを表示します。
全てのLEDを点灯し終わる前に[ENTER]キーが押されるとNGを表示します。

LED テストの点灯順



5. SWITCH TEST

画面に指示されたキーを順次押してチェックします。

全て順番通りスイッチを押すと OK が表示され、途中で最後のキー(CURSOR ▶)を押すと NG が表示されテストは終了します。

```

03D DIAGNOSTICS PROGRAM V1.00

 1.Initial Test       9.WordClock Test
 2.DSP&DRAM Test   10.DIO Test
 3.LCD Test           11.Slot Test
 4.LED Test           12.AD/DA Test(Sheet only)
 5.Switch Test       13.--reserved--
 6.Enc/Mouse Test   14.Exit
 7.Fader Test         15.Fader Asins
 8.Comm. Test       16.Factory Preset

5.Switch Test
Push RIGHT          Switch OK
  
```

押すべきキーの名称を表示します。

全て順番通りスイッチを押すとOKが表示され、途中で最後のキー(CURSOR▶)を押すとNGが表示されテストは終了します。

6. ENCODER/MOUSE TEST

エンコーダとマウスを画面の指示に従い操作してチェックします。

```

03D DIAGNOSTICS PROGRAM  V1.00
 1.Initial Test       9.WordClock Test
 2.DSP&DRAM Test   10.DIO Test
 3.LCD Test           11.Slot Test
 4.LED Test           12.AD/DA Test(Sheet only)
 5.Switch Test      13.--reserved--
 6.Enc/Mouse Test   14.Exit
 7.Fader Test       15.Fader Aging
 8.Comm. Test       16.Factory Preset

Encoder  ---->  OK
MOUSE
 Push L  Push R  OK
  
```

エンコーダを回す方向を表示します。

押すべきマウスのボタンを表示します。

正常に終了すればOKが表示され、途中で[ENTER]キーを押すとNGを表示し、テストは終了します。

6-1. エンコーダのテスト

- 6-1-1. エンコーダを「左」(時計と逆、表示は<---)に回します。
- 6-1-2. エンコーダを「右」(時計方向、表示は--->)に回します。
- 6-1-3. 正常の場合右側に OK が表示されて、マウスのテストに進みます。
途中で[ENTER]キーを押すと NG と表示してテストは終了します。

6-2. マウスのテスト

- 6-2-1. マウス「左」ボタンを押します。
- 6-2-2. マウス「右」ボタンを押します。
- 6-2-3. 正常の場合右側に OK が表示され、テストは終了します。

7. FADER TEST

フェーダーのキャリブレーションを自動実行した後、各フェーダーの往復の移動時間を測定します。1本でもNGがあるとOKの判定はできませんので、必要に応じてフェーダーの交換やエージング(Test No. 15)などを行います。

```

03D DIAGNOSTICS PROGRAM  V1.00

 1.Initial Test       9.WordClock Test
 2.DSP&DRAM Test    10.DIO Test
 3.LCD Test          11.Slot Test
 4.LED Test           12.AD/DA Test(Sheet only)
 5.Switch Test       13.--reserved--
 6.Enc/Mouse Test    14.Exit
 7.Fader Test         15.Fader Asins
 8.Comm. Test     16.Factory Preset

7.Fader Test
Fader Calibration : END
  [ 1]  [ 2]  [ 3]  [ 4]  [ 5]  [ 6]  [ 7]  [ 8]
UP  0.11  0.14  0.12  0.11  0.15  0.11  0.15  0.12
DOWN 0.12  0.11  0.13  0.11  0.12  0.11  0.14  0.12
  [ 9]  [10]  [11]  [12]  [13]  [14]  [15]  [16]
UP  0.11  0.14  0.12  0.11  0.15  0.11  0.15  0.12
DOWN 0.12  0.11  0.13  0.11  0.12  0.11  0.14  0.12
  [17]  [18]  [19]
UP  0.15  0.11  0.14
DOWN 0.12  0.11  0.11
  
```

OK

キャリブレーション終了時
ENDを表示します。

移動時間表示

テスト結果(OKまたはNG)

```

03D DIAGNOSTICS PROGRAM  V1.00

 1.Initial Test       9.WordClock Test
 2.DSP&DRAM Test    10.DIO Test
 3.LCD Test          11.Slot Test
 4.LED Test           12.AD/DA Test(Sheet only)
 5.Switch Test       13.--reserved--
 6.Enc/Mouse Test    14.Exit
 7.Fader Test         15.Fader Asins
 8.Comm. Test     16.Factory Preset

7.Fader Test
Fader Calibration : END
  [ 1]  [ 2]  [ 3]  [ 4]  [ 5]  [ 6]  [ 7]  [ 8]
UP  0.11  0.14  0.12  0.11  0.15  0.11  0.15  -NG-
DOWN 0.12  0.11  0.13  0.11  0.12  0.11  0.14  -NG-
  [ 9]  [10]  [11]  [12]  [13]  [14]  [15]  [16]
UP  0.11  0.14  0.12  0.11  0.15  0.11  0.15  0.12
DOWN 0.12  0.11  0.13  0.11  0.12  0.11  0.14  0.12
  [17]  [18]  [19]
UP  0.15  0.11  0.14
DOWN 0.12  0.11  0.11
  
```

NG

移動時間が規定時間(0.3秒)をオーバー
するとNGを表示します。

8. COMM TEST

Communication port のチェックを行います。

```

03D DIAGNOSTICS PROGRAM  V1.00
 1.Initial Test       9.WordClock Test
 2.DSP&DRAM Test   10.DIO Test
 3.LCD Test          11.Slot Test
 4.LED Test         12.AD/DA Test(Sheet only)
 5.Switch Test     13.--reserved--
 6.Enc/Mouse Test   14.Exit
 7.Fader Test      15.Fader Assign
 8.Comm. Test     16.Factory Preset

```

```

8.Comm. Test
      OK
TO HOST REFUSE
9PIN REMOTE
PLEASE FUSE TO HOST & REFUSE 9PIN REMOTE
TO HOST Tx Rx
9PIN REMOTE REFUSE
      OK
      OK
      OK

```

接続チェックの結果
(OKまたはNG)

この表示が出たら、接続を切り替えて
[ENTER]キーを押します。

未接続状態チェックの結果
(OKまたはNG)

8-1 接続状態チェック

COMMUNICATION チェック用ボードの TO HOST ON/OFF スイッチが OFF になっていることと、TO EDITOR 端子に 3 ピン-7 ピンと 2 ピン-8 ピンをショートしたコネクタ(ショートコネクタ)が挿入されていることを確認してからテストをスタートします。OK の場合は次の未接続状態のテストに進みます。

8-2 未接続状態チェック

接続状態のテストが OK になると、画面に"PLEASE FUSE RO HOAT & REFUSE 9PIN REMOT"の指示が表示されますので、TO EDITOR 端子のショートコネクタを外し、COMMUNICATION チェック用ボードの TO HOST ON/OFF スイッチを ON にしてから[ENTER]キーを押して未接続状態でのチェックを行います。

尚、このチェックは TxRx をショートしたジャックを利用してもチェック出来ます。

8-3 MIDI IN/OUT、THRU のチェック

MIDI からの MIDI プログラムチェンジ信号で Menu を選び、MIDI OUT にテスト結果の OK や NG が出力されることで確認します。又、MIDI IN に入れた信号が MIDI THRU に出ることも確認します。

9. WORD CLOCK TEST

Word Clock In/Out (BNC)をテストします。

```

03D DIAGNOSTICS PROGRAM  V1.00
 1.Initial Test       9.WordClock Test
 2.DSP&DRAM Test    10.DIO Test
 3.LCD Test          11.Slot Test
 4.LED Test          12.AD/DA Test(Sheet only)
 5.Switch Test       13.--reserved--
 6.Enc/Mouse Test    14.Exit
 7.Fader Test        15.Fader Asins
 8.Comm. Test      16.Factory Preset

9.Word Clock Test _____ OK
Make Test Loop and Press ENTER!
 Internal Word Clock In/Out OK

Change External Switch and Press ENTER!
 Word Clock Min [32KHz-6.5%] OK
 Word Clock Max [48KHz+6.5%] OK

```

3項目すべてOKならばOKとなり、それ以外はNGを表示します。

Communication チェック用ボードで、WORD CLOCK OUT からWORD CLOCK IN に信号が入力される状態にし、[ENTER]キーを押してテストを開始します。

テスト結果の表示(OKまたはNG)

```

03D DIAGNOSTICS PROGRAM  V1.00
 1.Initial Test       9.WordClock Test
 2.DSP&DRAM Test    10.DIO Test
 3.LCD Test          11.Slot Test
 4.LED Test          12.AD/DA Test(Sheet only)
 5.Switch Test       13.--reserved--
 6.Enc/Mouse Test    14.Exit
 7.Fader Test        15.Fader Asins
 8.Comm. Test      16.Factory Preset

9.Word Clock Test _____ OK
Make Test Loop and Press ENTER!
 Internal Word Clock In/Out OK

Change External Switch and Press ENTER!
 Word Clock Min [32KHz-6.5%] OK
 Word Clock Max [48KHz+6.5%] OK

```

Communication チェック用ボードで、TO HOST から WORD CLOCK IN に信号が入力される状態にして、[ENTER]キーを押してテストを開始します。

テスト結果の表示(OKまたはNG)

注:この検査は、通信チェック用回路が接続されないと動作しません。

10. DIO TEST

DIGITAL STEREO IN/OUT (AES/EBU, COAXIAL)のテストを行います。

```

03D DIAGNOSTICS PROGRAM  V1.00
 1.Initial Test       9.WordClock Test
 2.DSP&DRAM Test    10.DIO Test
 3.LCD Test          11.Slot Test
 4.LED Test         12.AD/DA Test(Sheet only)
 5.Switch Test      13.--reserved--
 6.Enc/Mouse Test   14.Exit
 7.Fader Test       15.Fader Asins
 8.Comm. Test     16.Factory Preset
10.DIO Test ----- 
Make Test Loop and Press Enter!
 AES/EBU   Status:  Audio: 
 COAXIAL   Status:  Audio: 
  
```

4項目すべてOKならばOKとなり、それ以外はNGを表示します。

テスト開始前にSTEREO OUT (DIGITAL)とDIGITAL STEREO INを接続します。[ENTER]キーを押してテストを開始します。

テスト結果 (OKまたはNG)

テスト結果 (OKまたはNG)

11. SLOT TEST

スロットのテストを行います。スロットに治具用カードが挿入されていることを確認します。

スロットのSLOT IDポートをチェックします。
 "O"—OK, "X"—NG
 NGの場合はSLOT IDポートまたはData Bus
 0~2に異常があります。

スロットのIRQSLTをチェックします。
 "O"—OK, "X"—NG
 NGの場合はIRQSLTポートまたはData Bus
 3に異常があります。

```

03D DIAGNOSTICS PROGRAM V1.00

 1.Initial Test       9.WordClock Test
 2.DSP&DRAM Test   10.DIO Test
 3.LCD Test           11.Slot Test
 4.LED Test           12.AD/DA Test(Sheet only)
 5.Switch Test       13.--reserved--
 6.Enc/Mouse Test    14.Exit
 7.Fader Test        15.Fader Asins
 8.Comm. Test      16.Factory Preset

11.Slot Test
 SLOT ID(IDSLT0-2 & Data Bit0-2) [000]
 IRQSLT(IRQSLT & Data Bus Bit3) [0]
 MUTEANA & RESANA & Data Bus Bit4-7
    [00000000]
 WORD CLOCK(WC1SLT-WC4SLT) [00000]
 SIGNAL CHECK(I1SLT-I4SLT & O1SLT-O4SLT)
    [0000]
    
```

5項目すべて"O"なればOK、
それ以外はNGを表示します。

すべて"O"となればOK、
それ以外はNGを表示します。

MUTEANA DATA BUS2 DATA BUS4 DATA BUS6
 RESANA DATA BUS3 DATA BUS5 DATA BUS7

各スロットのMUTEANA, RESANA, DATA BUS 4~7をチェックします。 "O"—OK, "X"—NG

```

03D DIAGNOSTICS PROGRAM V1.00
 1.Initial Test
 2.DSP&DRAM Test
 3.LCD Test
 4.LED Test
 5.Switch Test
 6.Enc/Mouse Test
 7.Fader Test
 8.Comm. Test
 9.WordClock Test
 10.DIO Test
 11.Slot Test
 12.AD/DA Test(Sheet only)
 13.--reserved--
 14.Exit
 15.Fader Asins
 16.Factory Preset

 SLOT ID(IDSLT0-2 & Data Bit0-2) [000]
 IRQSLT(IRQSLT & Data Bus Bit3) [0]
 MUTEANA & RESANA & Data Bus Bit4-7
    [00000000]
 WORD CLOCK(WC1SLT-WC4SLT) [00???]
    
```

入力ポート

OK
OK
OK

FSM 64FSM 128FSM 256FSM
 SYNCM ? :チェック中/チェック待ち

FSM, SYNCM, 64FSM, 128FSM, 256FSMの出力およびWC1SLT~WC4SLTポートをチェック結果
 "O"-OK, "X"-NG

```

03D DIAGNOSTICS PROGRAM V1.00
 1.Initial Test
 2.DSP&DRAM Test
 3.LCD Test
 4.LED Test
 5.Switch Test
 6.Enc/Mouse Test
 7.Fader Test
 8.Comm. Test
 9.WordClock Test
 10.DIO Test
 11.Slot Test
 12.AD/DA Test(Sheet only)
 13.--reserved--
 14.Exit
 15.Fader Asins
 16.Factory Preset

 SLOT ID(IDSLT0-2 & Data Bit0-2) [000]
 IRQSLT(IRQSLT & Data Bus Bit3) [0]
 MUTEANA & RESANA & Data Bus Bit4-7
    [00000000]
 WORD CLOCK(WC1SLT-WC4SLT) [00000]
 SIGNAL CHECK(I1SLT-I4SLT & O1SLT-O4SLT)
    [0000]
    
```

下の5項目すべてOKならばOK、
 それ以外はNGを表示します。

OK
OK
OK
OK
OK

テスト結果 (OKまたはNG)

I1SLT,O1SLT I3SLT,O3SLT
 I2SLT,O2SLT I4SLT,O4SLT

I1SLT~I4SLT入力及びO1SLT~O4SLT出力のチェック結果を表示します。

12. AD/DA TEST (SEAT ONLY)

このテストは、MAINシートチェックで工場での検査用で、ここでは実行しません。

14. EXIT

DIAG から抜けます。

15. FADER AGING

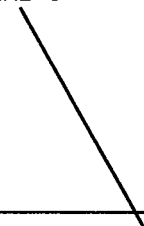
フェーダーのエージングの為、フェーダーの上下動を 100 往復行います。[ENTER]キーでメニュー画面に戻ります。

```

03D DIAGNOSTICS PROGRAM V1.00
 1.Initial Test            9.WordClock Test
 2.DSP&DRAM Test        10.DIO Test
 3.LCD Test              11.Slot Test
 4.LED Test              12.AD/DA Test(Sheet only)
 5.Switch Test           13.--reserved--
 6.Enc/Mouse Test        14.Exit
 7.Fader Test            15.Fader Aging
 8.Comm. Test          16.Factory Preset

15.Fader Aging
(100times)
[=END=]

```



残り回数を表示します。終了時はENDと表示します。

16. FACTORY PRESET

Factory preset の為のメモリーイニシャライズと ID の設定を行います。

```

03D DIAGNOSTICS PROGRAM V1.00
 1.Initial Test       9.WordClock Test
 2.DSP&DRAM Test   10.DIO Test
 3.LCD Test         11.Slot Test
 4.LED Test         12.AD/DA Test(Sheet only)
 5.Switch Test     13.--reserved--
 6.Enc/Mouse Test   14.Exit
 7.Fader Test      15.Fader Aging
 8.Comm. Test     16.Factory Preset

16.Factory Preset
ID ...790EC209 ALREADY EXIST
CANCEL  INIT   INIT&ID
...DONE
  
```

すでに入っているIDがある場合に
表示します。

すでに入っているIDか、下記のBULK
データにより送られたIDを表示します。

カーソルを合わせて[ENTER]キーを押すと
実行してIDを更新します。

カーソルを合わせて[ENTER]キーを押すと
イニシャライズ実行します。

各操作は、以下のようなプログラムチェンジで MIDI から操作することが出来ます。

```

CANCEL  C0 78
INIT    C0 78
INIT&ID C0 78
  
```

ID は、以下のような MIDI System Exclusive メッセージで入力することが出来ます。基本的に一度限りです。

```

F0 43 00 7E 00 18 4C 4D 20 20 38 42 30 33 54 21
30 33 44 20 yy mo dd hh mn 20 20 20 20 20 00 F7
yy: year
mo: month
dd: date
hh: hour
mn: minute
  
```

■ バージョンアップの方法

03Dは、フラッシュメモリーを搭載しており、MIDI IN もしくはTO HOST端子からソフトウェアのバージョンアップが可能です。このバージョンアップは、Macintosh、WindowsPC、MIDI データーファイラーなどから行うことが出来ます。

A 接続

各機種との接続は、下表に示す端子、ケーブル、ソフトウェアを使用します。

	送信側	受信側	使用する 03D の端子名	ケーブル	推奨ソフトウェア
1	03D	03D	TO HOST	Macintosh serial cable	-
2	MDF2	03D	MIDI IN	MIDI cable	-
3	Macintosh	03D	TO HOST	Macintosh serial cable	Terminal-J
4	PC	03D	TO HOST	PC serial cable	Hyper terminal

Macintosh serial cable: Mini DIN 8P-Mini DIN 8P cross cable for Macintosh
(ex. CCJ-MAC serial cable for YAMAHA CBX)

PC cable: Dsub 9P-mini DIN 8P
(ex. CCJ-PC2 serial cable YAMAHA CBX)

注: Hyper terminal は、Windows95 上の標準的なアプリケーションです。

B バージョンアップの方法

1 Macintosh を使用した場合のバージョンアップ

- 1-1 Macintosh と 03D を Mini DIN 8P cross cable で接続します。
 - 1-2 Macintosh の電源を入れます。
 - 1-3 03D の[UTILITY]キー、[DYNAMICS]キー、[EFFECT2]キーを押しながら電源を入れます。
 - 1-4 Macintosh の APPLE TALK を OFF します。
 - 1-5 Macintosh で Terminal-J を起動します。
 - 1-6 Terminal-J のメニューバーOption 内の Connection を以下のように設定します。
Method: Direct Serial/Baud Rate:38.4k/Parity bits:None/Data bits:8bits/Stop bits:1/Handshake:none. (図 1)
 - 1-7 Terminal-J のメニューバーOption 内の Transfer を以下のように設定します。
Binary[recognize and use MacBinary]OFF. (図 2)
 - 1-8 Terminal-J のメニューバーOption 内の X/YMODEM を以下のように設定します。
CRC OFF (図 3)
 - 1-9 Terminal-J のメニューバーSession 内の Connect を選択します。
 - 1-10 03D の [CURSOR]キーと[ENTER]キーを使って以下のように設定します。
PORT:TO HOST,FLYING:ON,UPDATE BLOCK:ALL (図 4)
 - 1-11 Terminal-J のメニューバーFile 内の TransmitXMODEM を選択し、ダイアログで 03D-V***.T を選択します。(***はバージョンナンバーです。)(図 5)
 - 1-12 03D の START を選んで[ENTER]キー押します。
 - 1-13 しばらくすると 03D に下記のメッセージが表示されます。
"Please send 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,A,B,..." (図 6)
 - 1-14 Terminal-J のメニューバーFile 内の TransmitXMODEM を選択し、ダイアログで 03D-V***.X を選択します。(***はバージョンナンバーです。)(図 5)
 - 1-15 03D の START を選んで[ENTER]キー押します。
 - 1-16 しばらくすると 03D に EXIT [] が現れます。EXIT を行うと通常モードに戻ります。
- 注: データ受信中は"*"が点滅します。

2 PC (Windows95) を使用した場合

- 2-1 PC (Windows95) と 03D を Dsub9P-miniDIN8P Cable で接続します。
- 2-2 PC の電源を入れます。
- 2-3 03D の[UTILITY]キー、[DYNAMICS]キー、[EFFECT2]キーを押しながら電源を入れます。
- 2-4 PC の Hyper terminal を起動します。
- 2-5 Hyper terminal の「ファイル」内で新しい接続を選択し、ウィザードに従い設定します。(図 7)

名前: 適当な名前をつけます。

接続方法: 接続している COM ポートにダイレクト

ポートの設定: ビット/秒: 38400
 データビット/秒: 8
 パリティ: なし
 ストップビット: 1
 フロー制御: なし

- 2-6 Hyper terminal の「通信」内の接続を選択します。
 - 2-7 03D の[CURSOR]キーと[ENTER]キーを使って以下のように設定します。
 PORT:TO HOST,FLYING:ON,UPDATE BLOCK:ALL (図 4)
 - 2-8 Hyper terminal の「転送」内のファイル送信を選択し、ダイアログで XMODEM と 03D-V***.T を選択します。(***はバージョンナンバーです。)(図 8)
 - 2-9 03D の START を選んで[ENTER]キー押します。
 - 2-10 しばらくすると 03D に下記のメッセージが表示されます。
 "Please send 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,A,B,..." (図 6)
 - 2-11 Hyper terminal の「転送」内のファイル送信を選択し、ダイアログで XMODEM と 03D-V***.X を選択します。(***はバージョンナンバーです。)(図 8)
 - 2-12 03D の START を選んで[ENTER]キー押します。
 - 2-13 しばらくすると 03D に EXIT[] が現れます。EXIT を行うと通常モードに戻ります。
- 注: データ受信中は"*"が点滅します。

3 MDF2 (MIDI)を使用した場合

使用するフロッピーディスクは、3 枚あります。

- A. ディスク 1: 03D***-T, 03D***-X
- B. ディスク 2: 03D***-Y
- C. ディスク 3: 03D***-Z

- 3-1 MDF2 の MIDI OUT と 03D の MIDI IN を MIDI Cable で接続します。
 - 3-2 MDF2 の電源を入れ、ディスク 1 をセットします。
 - 3-3 03D の[UTILITY]キー、[DYNAMICS]キー、[EFFECT2]キーを押しながら電源を入れます。
 - 3-4 03D の[CURSOR]キーと[ENTER]キーを使って以下のように設定します。
 PORT:MIDI,FLYING:ON,UPDATE BLOCK:ALL (図 4)
 - 3-5 MDF2 を、MDR モードにして[FILE DATA]キーで 03D***-T を選択します。(***はバージョンナンバーです。)
 - 3-6 03D の START を選んで[ENTER]キー押します。
 - 3-7 MDF2 をプレーします。
 - 3-8 しばらくすると 03D に下記のメッセージが表示されます。
 "Please send 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,A,B,..." (図 6)
 - 3-9 MDF2 のディスク 1 の 03D***-X を選択してプレーします。(***はバージョンナンバーです。)
 - 3-10 ディスク 1 の全てのブロックの転送が終わったことを確認して、ディスク 2 と交換し、03D***-Y を選択してプレーします。(***はバージョンナンバーです。)
 - 3-11 ディスク 2 の全てのブロックの転送が終わったことを確認して、ディスク 3 と交換し、03D***-Z を選択してプレーします。(***はバージョンナンバーです。)
 - 3-13 しばらくすると 03D に EXIT[] が現れます。EXIT を行うと通常モードに戻ります。
- 注: データ受信中は"*"が点滅します。

4 03D を使用した場合

- 4-1 03D の送信側と受信側の TO HOST を mini DIN 8P cross cable で接続します。
- 4-2 送信側の 03D の[UTILITY]キー、[DYNAMICS]キー、[EFFECT2]キーを押しながら電源を入れます。
 "BOOT UP PROGRAM...."の表示が現れたらすぐに AUX4 キー、EFFECT1 キーを押します。(図 9)
- 4-3 受信側の 03D の[UTILITY]キー、[DYNAMICS]キー、[EFFECT2]キーを押しながら電源を入れます。(図 4)
- 4-4 送信側の 03D を、[CURSOR]キーと[ENTER]キーを使って TRASMIT: FAST を選択します。
- 4-5 受信側の 03D を、[CURSOR]キーと[ENTER]キーを使って以下のように設定します。
 PORT:FAST,FLYING:ON,UPDATE BLOCK:ALL (図 4)
- 4-6 送信側の 03D の START を選んで[ENTER]キー押します。

4-7 受信側の 03D の START を選んで[ENTER]キー押します。

4-8 しばらくすると 03D に下記のメッセージが表示されます。

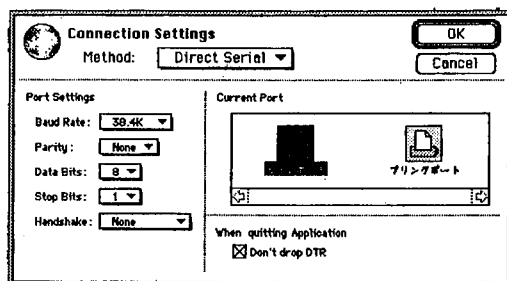
"Please send 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,A,B,..." (図 6)

4-9 再度、送信側の 03D を選んで[ENTER]キー押します。

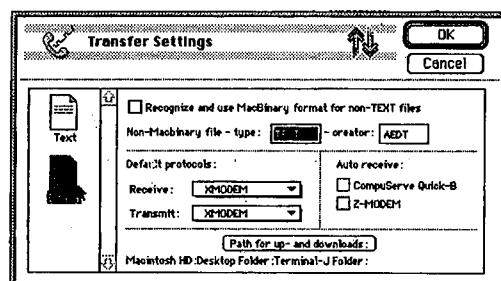
4-10 再度、受信側の 03D の START を選んで[ENTER]キー押します。

4-11 しばらくすると 03D に EXIT[] が現れます。EXIT を行うと通常モードに戻ります。

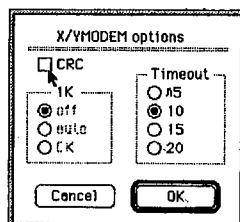
注: データ受信中は"*"が点滅します。



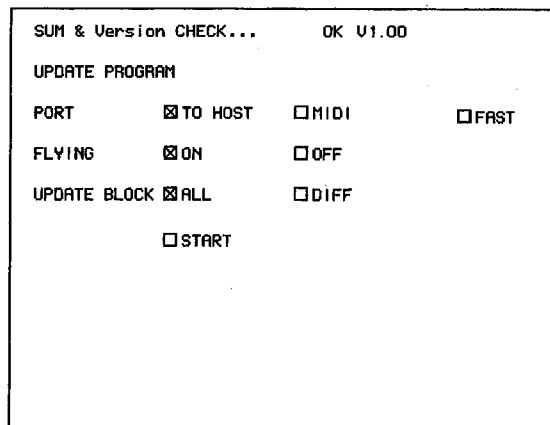
(図1)



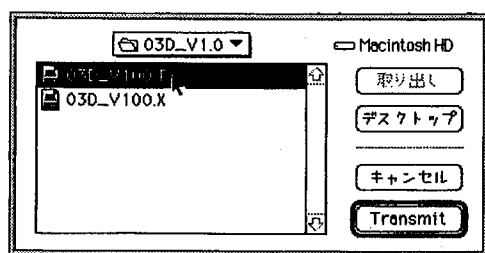
(図2)



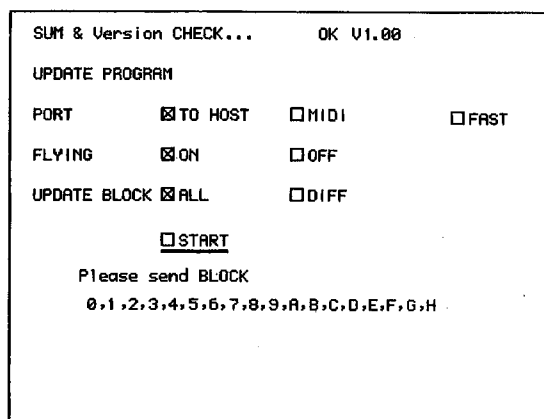
(図3)



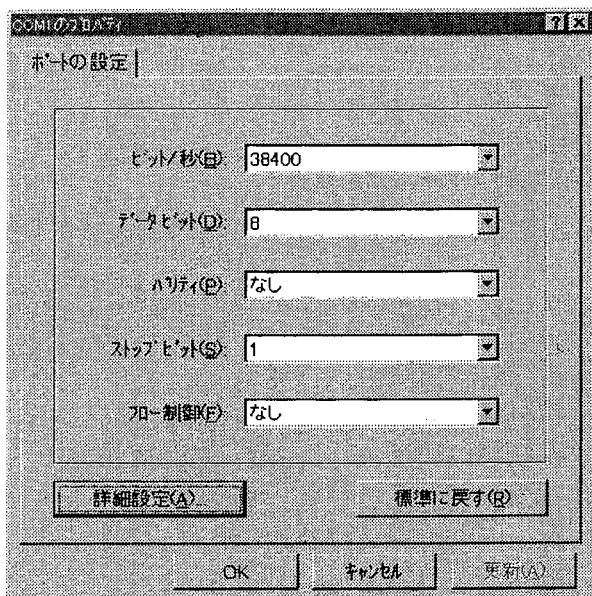
(図4)



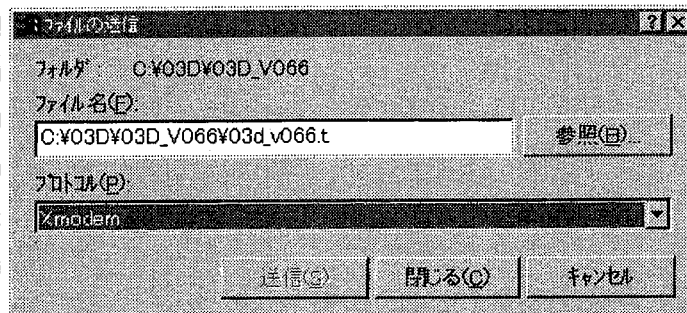
(図5)



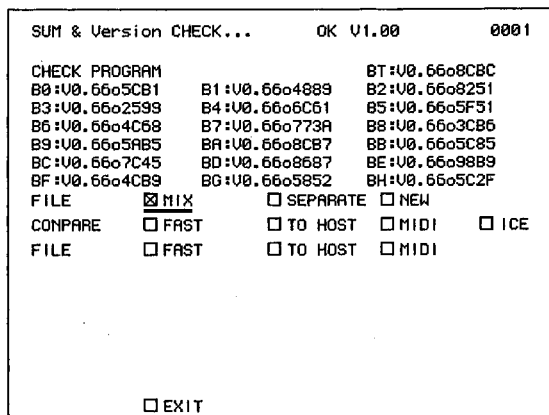
(図6)



(図7)



(図8)



(図9)

■ ディスプレイメッセージ一覧

AUTOMIX MEMORY FULL!	オートミックスのメモリーに空きがありません。不要なメモリーを消去したり、MIDIデータファイラーに保存するなどして空き領域を作ってください。
AUTOMIX REC ABORTED.	オートミックスの記録を停止しデータを破棄しました。 (このときオートミックスのアンドゥーバッファがENABLEに設定されていればアンドゥーが可能です。)
AUTOMIX REC STOPPED.	オートミックスの記録を停止しました。
AUTOMIX REC TIME EXCEEDED!	オートミックスのトータルの記録時間が許容範囲を超えました。
AUTOMIX RUNNING.	オートミックスの記録中または再生中のため操作を実行できません。
BULK:AUTOMIX MEMORY FULL!	オートミックスのメモリーに空きがないため受信したバルクデータを格納出来ません。
BULK:BYTE COUNT MISMATCH!	受信したバルクデータのバイトカウントが不正です。
BULK:CHECK SUM MISMATCH!	受信したバルクデータのチェックサムが不正です。
BULK:MEMORY PROTECTED!	データの格納先にプロテクトが施されているため受信したバルクデータを格納できません。
CANNOT CONNECT!	MIDI REMOTE画面で被制御機器との相互接続に失敗しました。ポートの設定、接続の見直しを行なってください。
CANNOT EXECUTE(NO DATA).	データがストアされていないため実行できません。
CH17-24 ARE DISABLED!	03DのYGDAIスロットにCD8-CSカスケードカードが装着されている場合、チャンネル入力17-24は無効となります。
DIGITAL ST IN SYNC ERROR!	DIGITAL ST INに入力されている信号がワードクロックマスターに同期していません。このまま使用すると音声にノイズが混入する可能性がありますので、正しく同期の取れた信号を入力してください。 (このメッセージはUTILITY画面のPreferencesページで表示しないように設定することも出来ます。)
FOR EFFECT2 ONLY.	選択しているエフェクトプログラムはEFFECT2にのみコールが可能です。
LOW BATTERY!!	内蔵バッテリーの寿命が近付いています。03Dに保存されているデータのバックアップをとったうえで(242ページ「バルクダンプ」)お買い上げの販売店にバッテリーの交換をご依頼ください。
MIDI IN:DATA FRAMING ERROR!	MIDI IN端子に適正でない信号が入力されていることが考えられます。
MIDI IN:DATA OVERRUN!	MIDI IN端子に適正でない信号が入力されていることが考えられます。
MIDI:Rx BUFFER FULL!	03DへのMIDIデータの流入量が多すぎることが考えられます。
MIDI:Tx BUFFER FULL!	03DからのMIDIデータの送信量が多すぎることが考えられます。

- NO DATA TO RECALL.** データがストアされていないためリコールできません。
- RECALL SAFE DATA CONFLICT!** シーンメモリーのリコールセーフ機能で特定のチャンネルが保護されていますが、リコールしようとしているメモリーはBUS/AUXのペア状態やパンモード(ステレオ/サラウンド)が異なっているためシーンリコールを実行できません。
- SOLO READY.** ソロレディー状態です。[SEL]キーでソロチャンネルを選択出来ます。
- SOLO SLAVE.** カスケードスレーブの時はソロのステータスを変更することはできません。マスター側コンソールのソロキーを押してください。
- TC FRAME JUMP!** 入力されているタイムコードのフレームがジャンプ、または逆走しました。タイムコードを出力している機器の見直しを行なってください。
- TC TYPE MISMATCH!** オートミックスのTIME BASE設定と異なるタイプのタイムコードが入力されました。この設定では正しくオートミックスが再生されない恐れがありますので設定の見直しを行なってください。
- TO HOST:DATA FRAMING ERROR!** TO HOST端子に適正でない信号が入力されていることが考えられます。
- TO HOST:DATA OVERRUN!** TO HOST端子に適正でない信号が入力されていることが考えられます。
- TO HOST:DATA PARITY ERROR!** TO HOST端子に適正でない信号が入力されていることが考えられます。
- TO HOST:RX BUFFER FULL!** TO HOST端子へのデータの流入量が多すぎることが考えられます。
- TO HOST:TX BUFFER FULL!** 03DからのTO HOST端子へのデータ送信量が多すぎることが考えられます。
- WRONG WORD CLOCK!!** 03Dが選択した同期すべき接続機器からのワードクロックが適切ではありません。その設定では同期システムが構築出来ないということです。システムの接続状態の見直しやDIO画面D.In Setupページの“AUTO NAVIGATE”機能を利用するなどして適正なワードクロックを選択し直してください。
- YGDAl INPUT SYNC ERROR!** YGDAlカードの入力端子に入力されている信号がワードクロックマスターに同期していません。そのまま使用すると音声にノイズが混入する可能性がありますので、正しく同期の取れた信号を入力してください。
(但し、同期システムが正しく構築されていてもデジタルMTRがチェイス状態になるまでの間クロックが不安定になりこのメッセージが表示される場合があります。このメッセージはUTILITY画面のPreferencesページで表示しないように設定することも出来ます。)